

H24年度厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）
分担研究報告書

国民に役立つ情報提供のためのがん情報データベースや
医療機関データベースの質の向上に関する研究

研究分担者：若尾 文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター
センター長

研究要旨：患者・家族にとってわかりやすいという観点でがん診療連携拠点病院を中心とした医療機関情報データベースであるがん情報サービス「病院を探す」を改修した。データベースの改修に加え、臨床試験データベースや各種がんの解説のデータとの連携を新たに追加し、別々に存在していたがんの臨床試験情報やがんの一般情報からがん診療連携拠点病院の情報に実際に繋げることができた。これは、情報探しから次のアクションに繋がる非常に有効なものである。今後、このような連携を進めることで、がん診療情報データベースがさらに、充実すると考える。

A．研究目的

本研究の目的は、国民に役立つ情報提供を実施するがん情報データベース（以下DB）や医療機関DBの質を向上させることにより、患者・家族・国民にがんに関する正しい情報と共に、がん診療を実施しているがん診療連携拠点病院等の情報を伝え、国民が、がんに関する正しい知識を持ち、安心して医療を受けることを支援すると同時に、医療者に対して正しい情報を伝え、科学的根拠に基づく医療を普及させることである。

B．研究方法

国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス「病院を探す」で公開されている医療機関データベースについて見直しを行った。その結果、毎年厚

生労働省に提出される推薦書・現況報告書のデータに基づく「がん診療連携拠点病院の情報」、独自の調査に基づく「緩和ケア病棟がある病院の情報」、各都道府県の保健医療計画と各都道府県の医療機関検索サイトへのリンクに基づく「各都道府県のがん診療を行っている医療機関の情報」で構成されており、「各都道府県のがん診療を行っている医療機関の情報」には、各がん種ごとページ「 県のがん診療を行っている医療機関の情報 がん」があり、該当するがん種のがん診療連携拠点病院の治療とセカンドオピニオンの対応状況の情報と患者さんや家族が語り合うための場を設置しているがん診療連携拠点病院の状況、がん種絞り込みが可能な医療機関検索サイトへのリンクが掲載されていた。しかし、がん種ごとの絞り込み検索が

できる医療機関検索システムが少ないこと、がん診療連携拠点病院のがん種別治療対応状況、セカンドオピニオンの状況、患者さんや家族が語り合うための場の設置状況を掲載したページがサイトの深い階層に置かれていることより、改修が必要と考え、検討を行った。

また、分担研究者である柴田が開発したがん臨床試験データベースに実施医療機関の情報が追加されことに伴い、その医療機関のうちがん診療連携拠点病院をピックアップして、病院を探すのサイト内にある該当拠点病院の臨床試験の問い合わせ窓口へのリンクを設定した。

さらに、リンパ浮腫外来がある医療機関について、インターネットでリンパ浮腫外来を解説していることが確認された医療機関58施設に対してアンケート調査を実施し、一定の研修を修了した担当者が担当している医療機関のデータベースを構築し公開した。一定の研修とは、厚生労働省委託事業がんのリハビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策定した、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」に沿った研修（講義45時間以上、実習研修90時間以上、計135時間以上）を満たす研修を基準とした。

一方、がん情報サービス各種がんの解説のページは、1がん種1ページの縦に長い短冊型のページとなっていた。胃がんのみは、基本情報／受診／検査・診断／治療／経過観察／再発・転移の6つのカテゴリーにタブで分割したページとして、掲載し、それぞれのタブにおいて、まず、基本的な情報を表示し、クリックによりさらに詳しい情報が表示できるように作成されて

いた。しかし、ページを作成するコンテンツ管理システムの制約により、ページの構造が非常にわかり難い状態となっていた。そこで、まず、ページ内の詳細情報を「説明を開く／説明を閉じる」で表示／非表示の制御ができるように改修したうえ、6つのカテゴリーを診療フェーズに併せた形に見直し、基本情報／診療の流れ／検査・診断／治療の選択／治療／生活と療養／再発・転移の7つのカテゴリーに再構築した。

（倫理面への配慮）

本研究においては、個人情報扱っていない。

C . 研究結果

がん情報サービス「病院を探す」の更新について、課題を解決するために新たにがん診療連携拠点病院の情報の中に「がんの種類別に地域の一覧をみる」というページを作成し、治療の対応状況、セカンドオピニオンの対応状況、患者さんや家族が語り合うための場、がんに関する専門外来をタブ単位で参照できるようにした。その結果、がん診療連携拠点病院の治療の対応状況、セカンドオピニオンの対応状況、患者さんや家族が語り合う場の設置状況について、がん種と対象都道府県を選択することで、治療の対応状況が、その画面からタブを選択することで、セカンドオピニオンの対応状況と語り合う場の設置状況が表示されるようになった。また、各都道府県の情報については、各都道府県が発信している様々な情報への目次ページである「地域のがん情報」を新たに作成し、そちらの医療機関カテゴリーにがん診療対応医療機関とし

て、医療機関検索サイトへのリンクを、計画・条例カテゴリーに保健医療計画へのリンクを掲載する形に整理した。

臨床試験データベースについては、従来の一覧を表示する形から、「がんの臨床試験を探す」として、がんの領域選ぶ 都道府県を選ぶ 試験進捗状況を選び、選択された条件に合致する試験を表示し、さらに、試験実施施設名を表示して、がん診療連携拠点病院については、病院を探す - がん診療連携拠点病院を探すのなかの臨床試験・治験の窓口にリンクする様設定されたことにより、今まで、別々に存在していた情報を連携できるようになった。その結果、一般の方でも、比較的容易に、問い合わせ窓口にたどり着くことができると考え、医療関係者向けのサイトから一般向けのサイトに移行した。

リンパ浮腫外来がある医療機関のデータベース構築について、条件を満たす研修として、日本医療リンパドレナージ協会講習会、Dr. VODDER METHOD OF MANUAL LYMPH DRAINAGE (MLD)/ COMBINED ECONGESTIVE THERAPY(CDT)、LETTAのリンパ浮腫指導技能養成講座、がんリハビリテーション リンパ浮腫研修の4研修が該当していた。また、回答より、28施設で研修修了者が外来を担当していることが確認されたが、外来名称、対象疾患名、診療内容・特色の情報がなかったため、追加調査を実施した。がん診療連携拠点病院については、現況報告書より、リンパ浮腫外来の有無等の情報はあったが、研修の修了状況は不明であった。そこで、「リンパ浮腫外来のある医療機関を探す」として、リンパ浮腫外

来のあるがん診療連携拠点病院と4つの研修を修了したセラピストが対応しているリンパ浮腫外来がある医療機関併せて156施設の情報を登録した。

各種がんの情報の更新としては、更新した胃がんを雛形として、上咽頭がん、中咽頭がん、下咽頭がん、喉頭がん、肺がん、胸腺腫と胸腺がん、中皮腫、食道がん、大腸がん、GIST、肝細胞がん、子宮頸がん、精巣（睾丸）腫瘍、卵巣がんの15種のがん種のタブ化を実施した。このタブにより、治療の選択タブの関連情報にそのがん種の治療の対応状況を掲載したがん診療連携拠点病院を探す、がんの種類から探すへのリンクを掲載した。

これらの改修により、病院を探すへのアクセス数は、改修前の平成24年4月 - 6月の561,394PVから改修後の9月 - 11月の794,811PVへ約1.4倍と増加した。また、各種がんの解説のタブ化によって、各種がんの解説へのアクセス数は、改修前の平成24年4月 - 5月の812,578PVから平成25年4月 - 5月の844,914PVに増加した。さらに、離脱率が改修前の73.2%から65.1%に大幅に低下した。

D. 考察

「病院を探す」について、従来は、保健医療計画や医療機関検索サイトへのリンクを併せて、広くがん診療連携拠点病院以外の情報もカバーすることを考慮されていたが、拠点病院以外の施設については、情報が不十分であり、今回は、まず、拠点病院の情報をしっかり提示できるよう変更することで、重要な情報により容易に到達できるようになったと考える。

また、従来、別々に存在していた臨床試験データベースと拠点病院データベースが、臨床試験の実施施設として、連携できたことは、大変大きな前進であると考ええる。

一方、リンパ浮腫外来がある医療機関のデータベースでは、拠点病院側の情報が不足していたため、内容がヘテロな状態となっており、まだ、全面的にプロモーションをかけるまでは至っていない。拠点病院に対するセラピストの研修状況を追加調査して、ホモの状態での情報提供に改修する必要がある。さらに、その次のステップとしては、現況報告集に加え、確実に情報を収集する仕組み作りが必要であると考ええる。

さらに、各種がんの解説の改修については、タブ化と開く／閉じるの切り替え機能により、求める情報の量に見合った参照が可能となると共に、必要な内容に絞って情報をアクセスすることも可能となり、見やすさが大きく改善したと考える。その効果は、今まで、長いページに圧倒され、すぐ離脱していたものが、ページ単位で読みやすくなり、他のページも参照するようになったという離脱率の大幅な低下とページビューの増加で示されていると考えられる。さらに、タブ化により、密接な情報のリンクとして、拠点病院の情報に繋げることで、今まで、関連付けされていなかった情報に辿りつかせるという非常に重要な価値を有していると考ええる。

E . 結論

患者・家族にとってわかりやすいという観点でがん診療連携拠点病院を中心とした医療機関情報データベースであるがん

情報サービス「病院を探す」を改修した。データベースの改修に加え、臨床試験データベースや各種がんの解説のデータとの連携を新たに追加し、別々に存在していたがんの臨床試験情報やがんの一般情報からがん診療連携拠点病院の情報に実際に繋げることができた。これは、情報探しから次のアクションに繋がる非常に有効なものである。今後、このような連携を進めることで、がん診療情報データベースがさらに、充実すると考える。

F . 研究発表

1. 論文発表

1. 若尾文彦：がん診療ガイドラインの公開体制について。日本外科学会誌 113(3)32-33, 2012
2. 若尾文彦：わが国のがん実態把握とがん検診の取り組み。保健師ジャーナル68(12):1034-1042, 2012
3. 若尾文彦：わが国のがん対策の動向。新臨床腫瘍学改訂第3版。p129-132。南江堂

2. 学会発表

1. 若尾文彦：がん診療ガイドラインの公開体制について。第112回日本外科学定期学術集会。千葉市。2012年4月
2. 若尾文彦：患者と医療者の情報共有は医療をどう変えるのか。第7回医療の質・安全学会学術集会,さいたま市, 2012年11月